

【結果】

7月度以降の区長会では、6月度までの前林区長会ホームページ研究会におけるホームページの作成に関する議論から、研究会の名称を「DX研究会」へ変更し、ホームページや電子回覧板などさらに幅広い課題研究について議論することについて全員の了承を得た。

※）「DX研究会」では、デジタル技術の活用によって自治区業務の負荷軽減を図ることを目的とする。加えて、ホームページや電子回覧板などさらに幅広い課題研究についても引き続き議論する。

【第6回DX研究会】

7月11日の区長会での奥山の説明内容

1. DXの理解（DXとはなにか？）→ DXの考え方や言葉の定義の整理

(1)DX（デジタルトランスフォーメーション）とは

デジタル技術を活用して、**新しいビジネススタイル**を生み出すこと

(2)DXの3つの段階

①**デジタイゼーション**：アナログデータのデジタル化

例えば、紙の書類をスキャンしてPDF化する

手書きメモをデジタルデータに変換（エクセルにデータ入力）

1)この段階でデータの整理・管理が必要

2)業務効率化とコスト削減が発生（紙の使用量削減、印刷・配送料削減）

3)情報共有がスムーズになり、意思決定がスピードアップ

②**デジタライゼーション**：デジタル技術を活用してプロセスを最適化

例えば、現状のプロセスを整理し、非効率な部分や改善が必要な箇所を特定し、

省略可能な箇所や改善が必要な箇所を可視化する

1)小規模なパイロットプロジェクトで試行し、効果を確認する

2)生産性が向上し、意思決定が迅速になる

3)作業時間が軽減されるため、付加価値の高い仕事に注力できる

③**デジタルトランスフォーメーション**：ビジネスモデルや組織文化を変革する

例えば、従来の運営方法を抜本的に見直し、デジタル技術を活用することで、効率化、

活性化を目指す

1)紙の回覧板を廃止し、スマホやホームページなどで回覧情報を配信

・メリット：情報伝達の迅速化、印刷・配布の手間やコスト削減、回覧停滞の解消、過去情報の検索・閲覧の容易化

2)自治区ホームページの活用：自治区や自治会の活動内容、年間スケジュール、イベント情報などをリアルタイムで情報発信

・メリット：広範囲への情報発信、新しい住民層へのアプローチ

3)会議・イベント運営の効率化：オンライン会議システム（Zoomなど）の活用

・メリット：役員会や区民説明会をオンラインで開催することで、場所や時間の制約を軽減。特に共働き世代や子育て世代の参加を促す。参加率の向上、移動時間・交通費の削減、議事録作成の効率化（録画・文字起こし機能を使って議事録自動作成も可能）

4)会費徴収（自治会費、管理組合費、区費、ごみ袋代金）：銀行振り込みなどの導入

2. DX化における課題と解決策

(1)デジタル機器に不慣れな高齢者などの区民への配慮

・解決策：スマホ教室の開催、デジタルに強い区民や若者によるサポート体制の構築
紙媒体との併用期間を設ける、操作が簡単なツールを選ぶ

(2)セキュリティ対策：個人情報の取り扱いなどへの配慮が必要

・解決策：情報セキュリティに関するルールを定める

※）自治区などにおけるDXは、単なるデジタルツールの導入ではなく、住民がより快適に、安全に暮らせる地域社会を築くための「変革」と捉えることが重要

3. 私たちは何を解決したいのか → 私たちがDX化に取り組む目的をはっきりさせたい

まずは、**役員の仕事を楽にしたい！**

→ そのことが区民サービスの向上につながり、役員の成り手不足解消にもつながる！

(1) 現状課題の洗い出し（現在の運営における「不便」「非効率」「不足」などを考える）

例えば

- 情報共有に関して
 - 回覧板がなかなか回ってこない、情報が届かない世帯がある
 - 災害時の情報伝達がうまくできていない、遅い、混乱する
 - 掲示板の更新が手間、古い情報が放置されがち
 - 広報誌（自治区だより、イベント情報）の印刷・配布にコストと労力がかかる
 - 新しく引っ越してきた住民が地域情報にアクセスしにくい
- 運営業務に関する課題
 - 会議の招集や開催が難しい（場所や時間の制約）
 - 役員の成り手不足（対外的な会議の負担が大きいと感じられている）
 - 会費の集金や会計処理が手間、非効率。（区費、管理費、ごみ袋代金、各種募金、会費）
 - イベントの参加者募集や集計が大変。
- 住民参加・交流に関する課題
 - 若い世代や共働き世代、子育て世代の参加が少ない、役員参加の負担感が大きい。
 - 住民間のコミュニケーションが希薄になりがち。
 - 自治区、自治会活動が一部の住民に偏りがち。
 - 住民からの意見や要望を吸い上げる機会が少ない。
- 災害対策に関する課題
 - 災害時の安否確認が難しい。
 - 避難場所の情報伝達がスムーズにできない。

(2) 理想の姿＝何をどのように実現したいのか : 「こうなったらいいな」を思い描く

- 情報共有
 - いつでもどこでも必要な情報にアクセスできる環境を整える。
「欲しいときに、欲しい情報を、欲しいだけ」
 - 災害時に迅速かつ正確な情報を住民全員に届ける。
 - 自治区情報やイベント情報を、多様なチャンネルで効果的に発信する。
- 運営業務
 - 役員の業務負担を大幅に軽減し、誰でも役員ができるような運営体制を築く。
 - 時間や場所にとらわれずに会議や意思決定ができるようにする。
（対外的な行事や会議負担の軽減をする）
 - 会費徴収や会計処理を簡単・効率的にする。
- 住民参加・交流
 - あらゆる世代の住民が自治会活動に参加しやすくなる。
 - 住民同士のつながりを強化し、地域コミュニティを活性化する。
 - 住民の意見を効率的に吸い上げ、自治会運営に反映できる仕組みを作る。
- 災害対策
 - 災害発生時に、住民の安否確認や情報共有を迅速に行えるようにする。

(3) DX導入の目的（DXによって何を実現したいのか）をシンプルで分かりやすい言葉で表す

- ・この「目的をみんなで共有する」ことが非常に重要

例えば

- ・役員の負担を軽減し、誰でも役員を担いやすいような自治会運営の実現
 - ・紙の回覧板を配る負担や、集金の手間を大きく減らして、役員の時間や労力を大切にする。
 - ・誰が役員になっても、スムーズに業務が進むように、手順書や役割分担をわかりやすくする。
 - ・デジタル技術を活用し、役員の業務負担（回覧板業務、会費徴収・集計・納金業務など）を軽減することで、より多くの住民が自治会運営を役員として担いやすい環境を整える。
 - ・リモート会議などを活用し、子育て世代や共働き世代など時間に制約を受けやすい住民でも会合などに参加しやすい運営体制を整えて、若い世代でも「これならできる」と思えるような負担の少ない自治会運営の仕組みを整える。
- ・全住民への迅速かつ確実な情報伝達と利便性の向上
 - ・デジタルツールを導入することで、災害時を含む様々な情報を迅速かつ確実に全住民に届け、情報アクセスと自治会サービスに関する住民の利便性を向上させる。
- ・住民目線を忘れない、できるだけ多くの住民の理解と協力を得られるようにデジタル技術の活用で住民の意思の確認と反映を取り込む。

(4) 目的達成のためのKPI（重要業績評価指標）を考える → やったことの成果を見えるようにする

例えば

- ・回覧板作業時間が、1回あたり平均○分から○分になった
- ・種々の会費徴収作業時間が、1回あたり平均○分から○分になった
- ・役員のアンケートで、業務負担が○%くらい軽減できた

4. 今後の進め方

- (1) 8月度の研究会で、各自治会が、自治会の運営において、今困っていることや、なんとかしたいと思っていることを拾い出して提出していただく
- (2) 9月度の研究会で、テーマを絞って、全員で進め方を議論し、各自治会での実行方法を決めてやる
- (3) 各自地区でやってみた結果を整理して、まとめる
- (4) KPI（重要業績評価指標）については今後の課題として継続して議論していきたい

以上